

サークル活動

日本の大学にはサークルや部活がありますが、中国の大学にも日本のそれにあたる社团（社团）や協会（協会）といったものがあります。そこでは日本の大学と同じく、学生が主体となって様々な活動に一生懸命取り組んでいます。

私が山西大学に入学してから入ったサークルの一つが、吉他団（ギターサークル）です。練習に使用する教室の広さと、応募する生徒の数が見合わないからでしょうか、入団前には面接が行われ、合格後に晴れて入団することになります。面接はギター部の学生によるもので、私も数人の学生の前でギターと歌を披露することになりました（非常に緊張しました）。面接に無事合格した後は、毎週決まった時間に自分のギターを持って集まります。各自楽譜を持ち寄ったり、スマートフォンで曲を探したりして自分の好きな曲を練習しています。互いにギターを教えあったり、音楽の話で盛り上がったりと、比較的自由的な雰囲気です。

もう一つ私が所属しているのが、対外汉语交流社（対外中国語交流サークル）です。ここでは、日本語やタイ語などのクラスがあり、留学生が中国人の学生に対して外国語を教えています。もちろん私は日本語のクラスに参加しています。日本語を学びに来る生徒の数は毎回 20～30 人ほどです。日本のアニメや漫画が好きで、そこから日本語に興味を持ち、学びに来る学生も多いです。最初はひらがなの勉強から始まり、あいさつや簡単な会話などが教えられています。生徒に話しかけると、「この漫画知ってる？」「この歌好きなんだ！」などと、逆に日本の漫画やアニメ、歌やゲームを教えてもらうこともしょっちゅうです。中国にも日本に興味を持ち、親しみを感じてくれている学生がこんなにいると思うと、素直にうれしいですね。

また、私の中国人の友達の一は心理協会（心理サークル）というサークルに所属しています。そこでは、心理に関する知識を学生に普及させる活動が行われています。普段の活動は、映画や劇を使った講座形式で行われているようです。イメージは、日本の小学校の道徳の授業を大学生向けに発展させたもの、といったところでしょうか。先日彼女に連れられて、サークルの発表会を見学させてもらいました。各グループによる劇や歌、ダンス、手話、朗読の発表が行われていました。テーマは各グループでそれぞれあらかじめ決められており、学校生活、交通ルール、交友関係など幅広い分野にわたります。劇は「心理劇」と呼ばれるもので、劇中の登場人物にどんな心理的問題があるか、それをどう解決するか、をすべて表現するものです。各グループの発表は何人かの学生の審査員によって点数化され、勝敗を競います。日本ではこのようなサークルは見たことがないので、非常に興味深かったです。

このように、中国の大学には日本のサークルと似たようなサークルもあれば、

日本ではなかなか見ないようなサークルもあります。しかし、どちらも日本と同じく充実した学生生活の場となっていることには変わりないでしょう。



対外汉语交流社のメンバーで、「大红灯笼高高挂」という劇の発表をしました。